

チャンネームやニックネームで呼び合しましょう。

3、例会観について

昔のドイツの実業家がビールに求めた慰安。イギリス人が午後の紅茶に求めた休息。スペイン人が午後に求めた休養。これらと趣きを同じくした、完全な安息を与えてくれるのが例会であります。また、友情に満ちた挨拶の交換、音楽、談話等のプログラムは己の教養の向上にも役立つものばかりである。実務家は自身を教育する便宜にあまり恵まれません。ロータリーはその欠陥を補うべき絶好の機会であり、例会は其中で最も有効な場所でありはす。

4、一業一会員限定制度について

ロータリーの基本的特色の一つで、会員は現に従事している専門職務によって分類され、一業種から一正会員という創立以来の制度があります。これに対して創立当時から非難がありましたが、クラブはその地域社会の職業界の縮図となること、特定グループの発生や同業者間の利害関係の発生を防ぎ友愛を保つこと、多種多様な価値観を持つ人達の幅広い親睦の育成等の論拠によって多少の改善が加えられたものの、制度は有効にロータリーに役立っているのです。

新潟第四分区 IM報告 会員増強代理 本間建雄美さん

1996年9月8日、加茂産業センターでのIM（都市連合会）のテーマは「会員増強で未来を築こう」でした。今回は会員増強一色でした。会員増強の必要性和新会員の勧誘方法の一部紹介等がありました。それについて報告させて戴きます。必要性について前ロータリー年度に全ロータリーが一斉に展開した会員増強運動の受益者として1996～97年度に入ったロータリーは積極的な方向に向かって成長しています。つばみや新芽が木や植え込みで新しい成長が起きているのを示唆している様に、新入会員の加入は新しいエネルギーやアイデア、そして振舞や経歴や観点をロータリーに注入し、この組織に活力を与えるのを意味しています。活気にあふれ成長を続けるか、停滞して、あげくに消滅するかのいずれかの道をたどる事でしょう。会員増強はRIの活力の源泉で、世界の役に立つ仕事を続けて行くのを可能にする力です。

会員増強は又、基本的な一業種一会員と言う創立以来の制度があります。当RCの会員構成を考え、バランスの良いRCかどうか地元の地域社会を的確に反映したRCになっているかどうか、又、新職種の補填と空白職業人の勧誘等、努力して欲しい、又、新しい分野の新職業が発生している中に、今日女性が大活やくしている職種も有り、女性入会も必要と思いますが？ 新会員の勧誘方法ですが、地域条件が余り良くない所で拡大増強をしている大船渡西RCの「根気よく」を紹介されました。皆様もロータリーの友8月号を読んで参考にして戴きたいと思います。

ロータリーが人類への遺産としてロータリーの永続的な奉仕を残すならば、ロータリーに“新しい血”すなわち新たな活力を与える様努力して下さい。1996～97北ロータリーRCは会員増強目標は7人です。皆様宜しく願い申し上げましてIMの報告と致します。

9月17日例会： 会員卓話 小島茂男さん

9月24日例会： 会員卓話 大竹保男さん



三条北ロータリークラブ週報

築け未来を
行動力と先見の眼で

例 会 日
1996. 9 . 10
累 計 No 479
当 年 No 10

国際ロータリー会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ 第2560地区ガバナー 吉田昭平

会 長／堀 川 正 幸

幹 事／佐 藤 義 英

SAA／長谷川恵慈

例会日／火曜日 12:30～13:30

例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX 34-8114

事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160 FAX 33-8972

行 事： クラブフォーラム（I・M報告）会長代理 落合益夫副会長

会員増強 本間建雄美副委員長

出 席： 本日の出席 56名中36名

先々週の出席率 56名中51名 91.07%（前年同期98.18%）

先週のメークアップ： 9月4日 三条RCへ 山口龍二さん、樋口金占さん

8日 加茂I・M参加 堀川正幸さん、佐藤義英さん、山上茂夫さん、
米山忠俊さん、大竹保男さん、本間建雄美さん、
大野新吉さん、加藤実さん、南部鉄血さん、
佐藤啓策さん、稲田憲治さん、西村 護さん、
外山晴一さん、本間茂男さん、久保 博さん、
山本 賢さん、石川勝行さん、落合益夫さん、
長谷川恵慈さん

9日 三条南RCへ 坂本勝司さん、中條耕二さん

ビ ジ タ ー： 三条RCより 林光輝さん、佐久間勝敏さん、加藤紋次郎さん

三条南RCより 佐藤英一さん

会 長 挨 拶： 副会長 落合益夫

本日は、三条南クラブより佐藤さん、三条クラブより林さん、佐久間さん、加藤さん、ようこそおいでいただきました。

暑い暑いと思っていましたが、今日はさわやかな秋日和りとなりました。先日のI・M参加の皆さんご苦労様でした。本日、堀川会長は得意先のコンペで長岡カントリークラブだそうです。I・Mの帰りのバスの中では塩谷プロの匂いがするとか、福島プロの足跡があるとか、大変と楽しみにして居られました。後半にもI・Mの報告がございますので挨拶を終わります。

幹 事 報 告： 佐藤幹事

- ・2560地区ガバナーノミニー1997～98久保田昭治より
ガバナーノミニー事務所開設のお知らせ
所在地 群馬県伊勢崎市今泉町1-9-7 (株)泉屋本店ニューいづみ3F
- ・ガバナー事務所より GSE五十嵐良子さんの参加が決まりました
- ・(株)米山梅吉記念館より 第Ⅱ記念館建設資金募集趣意書(統報)が来ています
- ・吉田ガバナー・ロータリーの友委員より 「ロータリーの友」特集記事掲載の為のアンケートの依頼
- ・ロータリーの友事務所より 1997年用「ロータリー・ダイアリー」のご案内
- ・ロータリーの友委員会より 「ロータリーの友」英語版買上についてのごお願い(再度)
- ・吉田昭平ガバナー、ローターアクト委員長より
第27回ローターアクト地区年次大会のご案内
日時 平成8年11月23日(土)16:00～24日(日)
会場 県央メッセピア
- ・「ダメ・ゼッタイ」国連支援募金 37,505円送金しました。
- ・ロータリー財団研究グループ交換報告書が届いております。
- ・新潟東RC直前会長より「10周年記念ビデオ」のお礼が届いています
- ・越後魚沼RCより 認証状伝達式のご案内
日時 1996年10月13日(日)11:00～15:00
会場 ホテル湯元(湯之谷村大湯)
- ・直前ガバナー重田政信より 事務所閉鎖のお知らせ、地区会計収支決算報告が届いています

ニコニコボックス：	10日現在累計 236,000円
-----------	------------------

- 今井克義君 長岡で全日本女子プロ選手権の決勝を見学に。優勝した塩谷の華麗なスイング。福島や服部のダイナミックなプレーを眼前でじっくりと見ました。私が今まで上手にならない理由わかりました。身近に参考となるような上手い人がいなかった為です。この秋は飛躍的に向上するでしょう!!
- 佐藤義英君 先日はIM参加の皆様大変ご苦労様でした。今日は落合副会長大変ご苦労様です。

米山奨学会：

- 梨本清一君 恒例による寄金です。

IM参加報告 落合益夫さん

9月8日、加茂市産業センターに於いて、加茂ロータリークラブのホストで開催されました。今回は会員増強がテーマでしたが、全体の内容は退会者をいかに少なくするかが討議されました。最

初に各クラブの会長が今年度の目標と現状を説明されましたが、三条クラブ、三条南クラブでは退会者が少ないので問題がないとの話でしたが、巻クラブからは今までに70数名が入会されましたが、現在は29名とのことです。次に堀川会長が話された内容を読み上げます。

「本年度我がクラブの基本方針と会員増強について」

今年の我がクラブの基本方針は

①今年は初心に還り、ロータリークラブの理念についてもう一度深く学び直すこと。

②楽しく且つ皆様の為になる企画を立てて下さる事。

以上の二点です。

国際ロータリーの基本理念にはクラブの内に対しても外に対しても奉仕する事が掲げられてあるわけですが、現在のロータリークラブは少し形式主義的になりすぎ、活動理念の掘り下げが足りないように感じます。私見でございますが、望まれる奉仕の姿とは、各自の自発的行為であり、見返りを求めず、奉仕をする側もされる側もお互い感謝と喜びを伴うものであってほしいと思います。常日頃の行為に対する懺悔^{ざんげ}や行い隠しであってはならず、表彰や名誉などの見返りを求めた行為ではなく、「陰徳を積む」「天の倉に徳を積む」行為こそが真に求められる奉仕の姿ではないかと考えます。

そのような意味も込めて、まずクラブ会員同志が仲良くなり、信頼しあい奉仕しあえる関係を築けて初めて退会者を防ぎ、入会者を増やすことが出来るのではないかと考え先の方針を掲げてみましたが、現在までのところプログラム委員会、新睦委員会の強力な支援を受けて、大変楽しく有意義な例会並びに活動が出来ているのではないかと思います。会員増強委員会も私の増強目標よりも高い目標をかかげて活動をしておられますので私としても期待をしている次第でございます。以上で報告終了です。

次にゼネラルリーダー大島精次氏(パスト・ガバナー)がロータリアンは原点に立ち帰りを主題に、下記の内容を強調されました。(I・Mへのメッセージより抜粋)

草創期よりのロータリーの形式上の取り決め事項

1、会の名称について

会員相互の職業生活を見聞することから、各人の事務所を巡回して例会を開いたので、「巡回」すなわち「ロータリー」なる名称を採用した。

2、ロータリアンの呼び方について

少年の頃育ったバーモントの小さな村、忘れがたいおじいさん、おばあさんとの楽しい暮らし、美しい山や谷やせせらぎに抱かれて育った少年P・Hがシカゴに開業して見たものは人の心の砂漠でありました。思い出すのは少年の頃の自分です。少年は汚れを知りません。少年は偏見がなく、寛容で、熱い情熱をもって、夢をもち、常に友好的な素晴らしい人生観を持っています。次第に消え失せてゆく少年の心を、心の中に宿らせていたい。サー・ドクター・プレジデント・プロフェッサー等の敬称は、互いの心の自由や寛容な心、近隣愛、友情を妨げます。少年時代に還ってクリス